

事例 4 概略 音楽を味わって聴く授業の実践～小中連携を見通した系統性をもたせた鑑賞の事例～

第4学年 B鑑賞ア、イ（A表現(2)器楽及び(3)音楽づくりとの関連も含む）

児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素【音色、旋律】

1 題材名 いろいろな音のひびきをかんとろう（8時間扱い）

2 題材の目標

- (1) 楽器の音色や旋律の特徴などと曲想との関わりに気付き、楽器の組合せや音の重なり方を生かして音楽をつくる技能や、音色や各パートの音のバランスに気を付けて演奏する技能を身に付ける。<知識及び技能>
- (2) 楽器の音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら味わって聴いたり、楽器の音色を生かした演奏の仕方や、音の重なり方などを用いた音楽の作り方について、思いや意図をもったりする。<思考力、判断力、表現力等>
- (3) 楽器の組み合わせ方や重ね方を工夫して音楽をつくったり、音色や音の重なりを生かして互いの音を聴き合って演奏したり、音色や旋律の特徴による曲や演奏のよさなどを感じ取りながら聴いたりする学習に進んで取り組む。<学びに向かう力、人間性等>

3 教材について

- (1) 鑑賞 「アルルの女」第2組曲から「メヌエット」 ビゼー作曲／ギロー編曲
「クラリネット ポルカ」 ポーランド民謡

4 題材の評価規準（鑑賞の部分のみ）※ 丸数字・・・全員の学習状況を記録に残す場面

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①[技]打楽器の音色や組合せの特徴、構成の仕方が生み出す面白さに気付き、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能や、音楽の縦と横との関係など音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。（音楽づくり）</p> <p>②[知]曲想と音楽の構造との関わりに気付いている。（器楽）</p> <p>③[技]音色や響きに気を付けて、旋律楽器や打楽器を演奏する技能や、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（器楽）</p> <p>④[知]木管楽器の音色や響きと曲想との関わりに気付いている。（鑑賞）</p>	<p>[思]①音色、強弱、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、いろいろな音の組合せを即興的に表現し、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（音楽づくり）</p> <p>[思]②楽器の音色の特徴や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲の特徴をとらえた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（器楽）</p> <p>[思]③楽器の音色や旋律の特徴と曲想との関わりについて気付いたことを生かして、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。（鑑賞）</p>	<p>[態]①打楽器の音の響きやそれらの組合せの特徴を生かし、即興的に音で表現する学習に進んで取り組もうとしている。（音楽づくり）</p> <p>[態]②楽器の音色を生かして演奏したり、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いたりして、音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。（器楽）</p> <p>[態]③木管楽器の音色や響きに興味・関心をもち、曲や演奏のよさなどを味わって聴く学習に進んで取り組もうとする。（鑑賞）</p>

5 指導と評価の計画（全8時間のうち、鑑賞として取り扱うのは7，8時）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 ◎指導上の留意点	知・技	思	態
1次◆音の特徴を生かして音楽をつくる。				
1	○音の様子を表したカードを使い、音の出し方を工夫する。			①
2	○打楽器の音の組合せ、音の重ね方、反復などを生かして、3人1組で音楽をつくる。	①知		
3	○「始め」「中」「終わり」の音楽の構成を意識して、まとまりのある音楽をつくる。		①	
2次◆豊かな響きを味わいながら演奏する。				
4	○拍にのって主な旋律を演奏する。	②知		↓
5	○パートの特徴を知り、音色に気を付けて合奏する。		②	
6	○各パートの音のバランスや響きに気を付けて演奏する。	③技		
3次◆フルートとクラリネットのひびきに親しむ				
7	○木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・「いろいろな木管楽器（フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット）」を聴き、音の出る仕組みや音色の違いに気付く。 ・フルートとクラリネットの音色を言葉で表す。 ・木管楽器で演奏されている曲を聴き、楽器名と理由を考える。 ◎タブレット等にデータを取り込み、再生順に並び替えておくと、スムーズに進めることができる。	④知		↓
8 本 時	○フルートとクラリネットの音の特徴や旋律の美しさやよさを味わいながら聴く。 ・「ア」「イ」の1フレーズを、楽器演奏のまねをしながら聴く。 ア：メヌエット イ：クラリネット ポルカ ・「ア」「イ」の一部分を、曲に合った指揮をしながら聴く。 ・「ア」「イ」の一部分を主な旋律の音の高さに合わせて指や手を動かしながら聴く。 ・「ア」「イ」の一部分を聴きながら、主な旋律を口ずさむ。 ・曲名と作曲者を知る。 ・どちらか1曲を選んでよさとその理由を書く。 ◎ワークシートにある図形楽譜をなぞりながら聴かせたり、身体の前に手を持ってきて、音の高さに合わせて手を上げ下げするなどして聴かせたりすることで、旋律の特徴をつかませる。 ◎主な旋律を口ずさむことを通して曲の感じをつかませる。 ◎「ア」は音の高さが高く、長い音が多いこと、「イ」は音の高さが低く、短い音が多いことを確認し、板書する。		③	

